

1. 緒言

2011年3月11日(金), 北緯38度06.2分, 東経142度51.6分(三陸沖), 深さ24kmを震源とする地震が発生した。この地震と、これによる災害を含めて「東日本大震災」と呼ぶことを、当時の内閣総理大臣・菅直人内閣総理大臣が平成23年4月1日の記者会見で発表し、以後定義された。

私個人の関わりにより、少しでも立ち直るきっかけになれるのではないかと「東日本大震災」に関連する卒業研究テーマにしたいと決心した。

まずは「東日本大震災」からの復興を支援する諸団体を調査する事から始めた。数多くある支援団体から、Hack For Japan とピースボート災害ボランティアセンターが共同で行った「災害ボランティア意識アンケート」の結果を得て、現在必要とされているボランティアを検討した。その結果、オンラインなどで時間があるときにできるボランティアが必要とされていることがわかった。

上記のアンケートの結果を踏まえ、情報工学科で五年間学んだことを活かせるテーマとして、『東日本大震災で汚損した写真の修復に関する一考察』とした。本研究の目的は「東日本大震災」における写真の修復の実態を明らかにし、実際に震災で汚損した写真修復を体験して汚損写真を以後どのように修復できるのかを提案することである。

2. 研究のアプローチ

- (1)震災で傷んだ写真の修復や、写真修復の支援を行っている団体を調査し、写真の修復に関わるボランティアの実態を調査した。
- (2)災害で傷んだ写真の修復を行っているボランティア団体「特定非営利法人フォトサルベージの輪」に写真修復のためのレタッチ作業を行うレタッチサポーターとして参加した。
- (3)実際に写真の修復を行い、写真の修復方法を検討した。
- (4)写真の修復方法の検討をし、汚損写真を以後どのように修復できるのかを提案した。

3. 結果

図1・図2は、本研究で提案した方法によって修整した汚損写真である。



図1. 左:修整前の写真 右:修整後の写真



図2. 左:修整前の写真 右:修整後の写真

4. 結論

写真の修復やその支援を行っている団体は、本研究で調査したところ、企業、教育機関、民間団体の合計9団体ある事が調査により分かった(現在はもう少し増えている可能性もある)。各団体、写真洗浄のノウハウの紹介や、修整を行っていることを紹介しているが、写真の修整の詳しい方法を紹介している団体はなかった。

よって本研究では、特に汚損写真の詳しい修整方法を検討提案した。

5. 今後に向けて

現在、修復や洗浄が終わった写真と持ち主が出会うにはどうするべきか、という問題がある。そこで、修整の終わっていない写真をデジタル化してデータベース化することで、被災者がいつでも写真を探せる環境を作ることができると考えられる。また、本研究で提案した写真の修復方法をインターネットで公開することにより、このボランティアがより広まるのではないかと考えられる。

協力機関

[1]Hack For Japan

<https://sites.google.com/site/hackforjapan/>

[2]特定非営利法人 フォトサルベージの輪

<http://www.photosalvage.net/index.html>

[3]一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター

<http://pbv.or.jp/>